

第 53 回神奈川県立座間谷戸山公園 現場研修会報告

—テーマ：湿地と草地環境の順応的管理—

今回の研修会は、湿地環境の順応的管理というテーマで湿生生態園のヨシ刈り、後半は野鳥の原っぱと呼ばれている草地の順応的管理のための調査を行いました。



谷戸山公園の水田では、稲穂が頭をたれ、お米の芳しい香りが漂っていました。
そして、根元にはコナギがきれいな花を咲かせていました。



朝からの強い雨で、研修会は屋内でのスタートとなりました。試験直前にもかかわらず、6名の方が参加してくれました。



谷戸山公園運営会議の方が、今回作業を行う
草地環境について説明してくださいました。
雨が小降りになったのを見計らって、
植生調査実習の開始です。



調査をする際には、調査地の地図を作成し、
記録していくことが重要です。まずは、草地と
樹林との境界を地図上に記録していきます。



基準点から巻尺で距離を測ります。この2点間の長さを基準とし、
草地に一番近い樹木を頂点とした二辺を、測量していきます。



これらの長さから三角形を描き、
樹木の位置を地図上におとします。



さらに、草地の際も明確にしていきます。



地点とした樹木の種類や幹周なども記入します。出来上がった地図を見ると、はじめに思っていたより草地環境の範囲が小さく、樹木が多い事がわかりました。飛びながら見下ろしている鳥や昆虫などからは、そのように見えているのでしょうか。



昼食後は、恒例の「最近気になった環境に関するニュース」の発表です。少人数だった事もあってか、和やかな発表会となりました。



午後は、刈取りしてから2ヶ月弱のススキ・オギ原の植生調査を行いました。



ススキの根元には、寄生植物であるナンバンギセル(写真左)が確認されました。また、刈取り後明るくなったところには、キツネノマゴ(写真右)など、50種以上が見られるようになりました。



今後も植生調査を続けて、検証し、
今後の管理につなげて生きたいと思います。

これで、今回の現場研修会は終了です。まだ参加されたことのない方は、是非一度ビオトープを肌で感じられる研修会に参加してみてください！お待ちしております！